



日本福音ルーテル教会 北海道特別教区報

第41期第4号
2022年3月25日
発行者:小泉基

慈しみの主への賛美は わたしたちの希望の歌

小泉 基

賛美歌を歌うと、なぜ元気が出てくるのでしょうか。賛美歌を歌うと、なぜ心が静まるのでしょうか。賛美歌を歌うと、なぜやさしい気持ちになるのでしょうか。

それがなぜかは説明できなくても、確かに賛美歌にはそんな力があります。教会や学校で、あまり深くも考えずにくり返し歌ってきた賛美歌の一節が、ふっと浮かんできて、暗闇のような時間に灯る1本のろうそくのように、心に光を呼び込むようなことが、時としておこってくるのです。



ルターは、わたしたちに悲しい心配事や不安にさせるような憂慮をもたらすのは悪魔の仕業だと言います。確かに毎日テレビから流れてくるニュースは、わたしたちに不安や憂慮ばかりをもたらします。それは確かに現実におこっていることですから目をそらすわけにはいきません。けれども、理解も方向性も深められないままに辛い現実ばかりを数え上げるような報道に心が削られていくのも事実です。しかしルターは、そうした悪魔も「音楽を聴くと、神学の言葉を聞いて逃げるのと同じように、ほぼ即座に逃げていく」のだというのです。「神の御言葉は、説教されるだけではなく歌われるべきだ」。「他の人にも聴こえるように喜びをもって歌い伝えなさい」とも語っています。

わたしたちは、悪魔に誘惑されるような日々の中でこそ、神さまへの信頼を生きねばなりません。先日、目を覆いたくなるような戦争のニュースの洪水の中で、ポーランドの国境の町でボランティアをしている保育士さんの短いインタビューを聞きました。彼女は休暇をとってその町にやってきて、そこで毎日12時間のボランティアをして、そして1週間たって休暇が終われば、そこから600km離れた自分の町に帰っていくというのです。彼女がクリスチャンかどうかはわかりません。けれども彼女は、目を覆いたくなるような現実の中で、それでも希望をもってその現実を生きているのだと思いました。そして希望をもって現実を生きる保育士さんに育てられる子どもたちは幸せだ、とも思いました。

わたしたちが賛美を歌うのは、わたしたちが神さまに信頼をおいているからです。そしてわたしたちが神さまに信頼をおくならば、わたしたちは希望を生きているのです。

新しく、標記の主題をいただいて新しい年度を歩み始めたわたしたちの教区は、主に財務的な問題から、変革へと向かっていく課題の中にあります。変革にはいつも不安が伴いますが、悪魔の誘惑に心惑わされることなく、わたしたちはともに賛美の歌を歌い、希望をもって確かな一歩を踏み出していきたいと思えます。

各教会の近況報告

【函館教会】

小泉 基

今年は諸事情あって、12月25日にキャンドルサービス、26日に降誕主日礼拝を祝いました。今年も会食をとまなう祝会は出来ませんでした。それでも新たに教会員になられた村屋梨乃さんの受洗を祝って、「五稜郭タワー杯カール・レイモンソーセイジ争奪大じゃんけん大会」などで楽しく盛りあがりました。年が明けて市内のCOVID-19感染者が増加。定期総会は延期され、主日礼拝も2週間にわたってオンラインだけとなりました。けれども2月27日にはなんとか総会が開催され、無事に新年度へと踏み出しました。

教会では、3月18日現在、昨年の屋根板金張替工事に引き続いて、礼拝堂の天井の塗装とクロスの貼り替えが行われています。まだまだ礼拝に出てこれられない方も少なくありませんが、献堂以来の30年分の煤をはらって、綺麗になった礼拝堂でイースターを迎えることができる喜びにみちています。



【恵み野教会】

中島 和喜

恵み野教会は12月18日に開かれたイブ礼拝はまだ日が落ちきらない15時から開くこととなりました。すると蠟燭の光が目立ちません。しかし、そこは考えよう。一日で唯一「暗くなっていく」時間帯であると考え、礼拝堂前面にプロジェクターで星を映し徐々に星が目立つようになるという工夫をいたしました。肝心の星の光具合は…あまりにも良い天気だったためそこまで光りませんでした。楽しい礼拝を過ごせたのではないかと思います。さらに翌日19日の降誕祭では一人の受洗者が与えられ、楽しさだけでなく嬉しさも与えられました。

再びのまん延防止措置に恵み野教会は1月30日から3月20日までの計8回の礼拝を休止することとなりました。それでも、家庭礼拝用式文と説教や近況報告を毎週発行し、それぞれの場所にあっても主が共におられることを確かめました。



【帯広教会】

岡田 薫

2021年のクリスマスは12月24日から27日にかけて各所で行われました（燭火礼拝、浦幌集会、主日礼拝、釧路家庭集会）。感染症のまん延が落ち着いていたこともあり、新来会者も交えささやかなお祝い会を共にすることができました。しかしながら、2022年を迎えてほどなくして、かつてないほどの感染爆発となり、1月半ばの教会総会資料のお届けと共に“集うかたちでの礼拝の休止”をお知らせすることになりました。賛否もありましたが、集まるリスクは抑えつつ日曜の午前中は礼拝堂を開放し、“祈りを共に”と希望される方には牧師が対応いたしました。現在も新規感染者数は高止まり傾向にありますが、ワクチン接種も進んでいることもあり2月20日から通常の礼拝も再開し、3月6日にひと月遅れで無事総会も終わることができました。



記録的な大雪に見舞われたこの冬の札幌。昨年の12月早々から年明けの2月にかけて、1日50センチ以上のドカ雪が何度もありました。札幌教会に赴任して11回目の冬を迎えた私にとっても初めて経験する大雪でしたが、ここに何十年も住んでおられる教会員にとっても記憶にないほどの大雪だったようです。そのような厳しい冬であったにもかかわらず、札幌教会は天に召される方もなく、みんなで春を迎えることが出来ることは嬉しいことです。



コロナ禍のため主日礼拝は長らく短縮バージョンで行われていましたが、アドベントからやフルバージョンに戻り、聖餐式も再開されました。式文が歌える喜びを噛み締めていましたが、その喜びも束の間。新年早々に再びまん延防止等重点措置が出されましたので、短縮礼拝に逆戻り。聖餐式もおあずけとなっています。それでも会堂に集まる主日礼拝は1日も休止することなく、現在に至っています。礼拝奉仕に当たっておられる方々に感謝すると共に、大雪を掻き分けて一生懸命会堂に集われる皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。会堂まで来ることのできない方は、オンライン礼拝や牧師が送る説教原稿によって家庭礼拝を守っておられます。コロナ禍のみならず、ウクライナへのロシアの侵攻など私たちを不安に陥れるような出来事が日々起こっていますが、そのような私たちを支えてくれるのは聖書の御言葉しかありません。これからも御言葉を何よりも大切にする群れでありたいと願っています。

クリスマスには受洗者と転入者も与えられました。また、イースターには堅信者も与えられる予定です。私たちにとっては思うように宣教活動が進められない状況が続いていますが、それにもかかわらず主ご自身が働かれるので、私たちはその実りを豊かにいただくことが出来ます。神に感謝。



教区総会の報告

岡田 薫

3月21日に「第42回北海道特別教区定期総会」が恵み野教会を会場に開催されました。年明け早々に感染症のまん延がかつてないほどの勢いとなり、集うかたちでの礼拝を休止している教会もある中、どのような形での開催が可能か？という協議する所から準備は始まりました。教区長はじめ教区常議員メンバー、道内教職は折に触れて情報交換を行い、教区が抱えている課題の大きさに鑑み、今回はオンラインでの開催ではなく対面での開催を目指すこととなり、3月の開催が不可となった場合には4月に延期することを前提として準備を進めて参りました。

まん延防止措置の延期もあり、直前まで延期か開催かという判断は難しく、会場教会の意向と諸般の事情を踏まえ、予定通りの3月開催となりました。実に2年ぶりの対面による定期総会では座長の進行もスムーズに、一昨年の「祈り」、昨年の「み言葉」に続いて、今年度は「賛美」に焦点をあてた宣教方策が承認されました。また順調に議事が進みましましたので、午後には出席者の思いをわかちあう懇談の時間を持つことができました。目の前にある課題は決して小さなものではありませんが、出席者の皆さんは教会や施設の代表としての思いを述べてくださいました。恵まれたひと時だったと思います。

また、新教区長には小泉基牧師が再選され、以下のメンバーで第42期の教区常議員会が構成されることとなりました。教区長：小泉基、書記・財務（副教区長）：岡田薫、会計：岡田ひとみ（教区選出信徒常議員）、伝道部：滝田裕美、教育部：中島和喜、社会奉仕部：太田満里子。教区を構成しているひとつひとつの教会、それぞれの教会に属するひとりひとりが、主の恵みと祝福に満たされている幸いを実感し、生き生きと福音を語り、伝え、わかちあっていくことができるように、祈りをあわせ、賛美をともにしながらあゆんでまいりましょう。



太田(恵) 岡田(帯) 小泉(函) 中島(恵) 滝田(札) 岡田(帯) (敬称略)

教勢動向

函館教会	・受洗	村屋梨乃 (12月26日)
札幌教会	・受洗・堅信	浜出健治 (12月25日)
	・転入	井上志乃 (12月18日)
恵み野教会	・受洗・堅信	吉田悟美 (12月19日)